



緊張の中にも、順調な歩み出しの姿が見られます

新しいクラスで新しい仲間と歩みだし、ほぼ1ヶ月が過ぎようとしています。毎朝、元気に登校する姿や飛び交う挨拶の声。「一年生を迎える会」を初めて最高学年として企画運営した6年生。そして全校の前で元気いっぱいの姿を披露した1年生。それに応える全校の皆さん。緊張感の中にもフレッシュな空気を感じます。新しい風を感じつつ、スムーズな歩み出しができていていると感じています。

進級や入学したら、当たり前のように始まる4月。そして新しい仲間との活動。あまり親しくない人もクラスにいたりして誰にとっても初めはドキドキするものです。しかし、そんな節目となる1ヶ月は本当に大切な期間だったと感じます。誰もが新しい自分・こうなりたいなあと思っている自分を意識して挑戦・再スタートしました。黙っているだけではなく、誰かに話しかけて新しい関係を築こうとする。そんな緊張の中に普段の自分だったらやらないだろうなあと思うようなことをやっていたり、発言したりする。それは、今まで出すことができなかった、または気がつかなかった新しい自分だったり、新しい仲間関係をつくっていきいたいという気持ちの表れだったりします。「〇〇係をやってみたい」「元気な挨拶ができた」などといった姿の一方で、「緊張しすぎていつもの自分と違う」「硬くなってしまって・・・」などといった普段の自分らしさが出せていない姿もあるでしょう。しかし、自分ってどんなかな？って見つめたり考えたりすることは、非常に大切です。まだまだ緊張しながら、過ごしている子もいると思います。これからの学級での学習・活動や行事を通して、新しい自分見つけ、自分づくりを進めていってほしいと思っています。

成功経験・失敗経験

5月8日から5類になるコロナも一時期よりも勢いが下火になり、今まで控えていた活動を少しずつ再開することになります。そんな中で、もしかすると、経験が不足しているがゆえに、子どもたちが挑戦してもうまくできないこともあるかもしれません。全てのことは、経験してこそ理解ができたり身についていくのです。実際にやってみて、うまくいったり、失敗したりする。それこそが大切です。失敗を恐れるがあまり、なかなか活動が行われず、経験値として子供たちに蓄積されて行かないことを心配しています。やってみてうまくいって身につくこと、失敗してわかっていくこと。これらは、同じことだと考えています。ただ、失敗した時には、なぜうまくいかなかったのか？が大切になってきます。なぜだろう？と考えることで、再挑戦への意欲につながっていきます。「手をはしても目を離さない」とよく言われますが、さらに、見た目の「成功・失敗」に心奪われずに、その後の姿まで見届けられる大人でありたいと思います。素晴らしい可能性を秘めた子どもたちです。西っ子としてのびのびと成長してほしいと思っています。

環境を整える

子どもたちの登校に付き添いや交差点で見守りをしてくださる保護者・地域の皆様。学校にある木々の剪定や空いた敷地にきれいなお花を植えてくださる皆様。子どもたちに温かく元気な姿や声を生み出したり、心和む空間を作り出したりしてくださっています。普段から、子どもたちを、学校を支えていてくださっているのだと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。



新しく、芝桜とあじさいが
仲間入りしました



桜に変わり、**つつじの花**が校舎の周りを
華やかにしてくれています